深田久弥
山の文化館だより
平成31年
冬号

深田久弥　山の文化館
〒九二二―〇〇六七
石川県加賀市大聖寺番場町十八
TEL（〇七六二）七二―三三一三
FAX（〇七六二）七二―一一八一

石川県立保育専門学園を訪ねて

深田久弥は保育専門学園の学園歌を作詞しています。石川県立保育専門学園の学園長が山の文化館を訪問されたことに応えるということもあり、学園歌の合唱が聞かれると言うことで学園祭にお邪魔しました。学園祭ではオープニングに学園歌の合唱があり、在校生の皆さんの美しい歌声を聞くことが出来ました。講堂には歌詞の額が掛けられ、また校庭の花壇の中には学園歌の石碑が埋め込まれてあり、学園歌が大切にされているのを感じました。歌詞の中には「乙女ら集い」とありますが、学園は共学になり隔世の感がありますが、歌詞の中に流れる「幼な児」をおもう心は受け継がれていると思いました。

深田久弥は石川県児童課課長から頼まれて、昭和二十六年四月から先生になっています。そんなご縁もあってか、泉野の現在地に移転するときに現在の学園歌を作詞したようです。

参考文献：「初めて先生になる」『きたぐに』に収録。

学園歌

深田久弥　作詞
今井松雄　作曲

一、麗しき　山なみみえて
いづみの　学びの園に
若々し　歌声あがる
望みつつ　胸もおほらに
眉清き　乙女ら集ひ
讃へなむ　この若き日を
つぶらなる　瞳も澄みて
いとけなき　ゑまひをみれば
人の世の　けがれも忘る
おなじ道　歩む我らの
心なる　願ひはひとつ
幼な児に　幸あらしめよ
二、双葉より　すくすく伸びて
空に立つ　緑の大樹
育ちゆく　幼な児こそは
たぐひなき　国の宝ぞ
尊しや　我らがつとめ
まことをもて　いざ励まなむ

久弥と五万分の一地形図と赤鉛筆と　その5

赤鉛筆で書き込みのある地図の中から「京丸山」というどこかみやびな山名に引かれ、五万分の一地形図「佐久間」（地勢図「豊橋」の二）を開いてみた。確かに、京丸山の山名にはアンダーラインがあり、登路とおぼしきラインを鉛筆で引いてある。谷の名前や地図にはない隣の山名なども書き込まれている。

久弥の作品の中に京丸山に関するものがないかと探すと、そのものずばり「京丸山」と題する文章があった。昭和三十九年暮から翌年正月にかけて出かけた、秋葉山と京丸山に関するものであった。このころ、深田久弥は毎年元旦を山頂で過ごすことにしていたようである。この山行も、昭和三十八年元旦から始まり、亡くなる年の蛇峠山まで続いた元旦登山の一つだった。

京丸という地名について「柳田国男さんは・・・・山奥から大きな牡丹の花が流れ出るという伝説について書いている。京丸という名前のいわれも書いている。」とある。そこで文章の中にもある『定本柳田国男集』第二十巻の「京丸考」を読んでみた。難しくてよく分からないが、京丸の人たちは、京都へ行って夫役を務めていたようである。そして、京丸は山村の中で最も世情に通じた気の利いた人たちの住んで居た在所であると書いてある。

参考文献：「京丸山」『山頂の憩い』に収録。

「聞こう会」二題

十一月十八日の「聞こう会」に深田勝弥氏、また十二月九日には岩崎元朗氏をそれぞれ講師としてお招きし、お話を聞く機会を得ました。

深田勝弥氏は、幼いころ見た叔父としての深田久弥のエピソードを始め、久弥の楽しかった想い出を、終始にこにこされながらお話くださいました。

また岩崎元朗氏の「山に登れば元気になる」の講演会では、氏が乗車された新幹線の停電により、大幅に到着が遅れるというハプニングが起きました。講演開始予定の一時半にお集まりいただいた方々に、説明とお詫びをし、映像の放映などで二時間の空白を埋め、何とか凌ぐことができました。

時間がなく聞くことを取りやめて帰られる方もおられましたが、三時半の岩崎氏の講演開始時には多くの方々が戻って来られました。岩崎さんのお話は、岩崎流ゆっくり歩きの話を中心に、ご自分の経験や現代の登山世相の話をされ、皆で山に登って山好きを増やしましょうと結ばれました。そして最後には替え歌で山の歌まで飛び出しました。皆さんの協力のおかげで無事終了することができました。

岩崎氏、講演を聞きに来られた方、そしてスタッフの皆の大きな心に触れた出来事でした。

深田　勝弥　氏

岩崎　元朗　氏

読書会と山歩き

深田久弥山の文化館では年間十回程の読書会を行っています。深田久弥の作品を読むだけではなく、その作品の世界に触れて見たいと思い足を運んでいます。春の「日野山と木ノ芽峠」を読んでの木ノ芽峠と味真野散策に続いて、今回は「越中の二上山」を読み高岡の二上山に大伴家持を訪ねました。天候にも恵まれ、大伴家持の世界と、秋の山を満喫できました。

これからもこのような企画をして行きたいと思っています。皆様のご参加をお待ちしております。

●聞こう会予定

■二月十七日(日)午後一時半より三時
深田久弥山の文化館聴山房
演題：白山信仰
講師：藪下　昇一氏
（全国北前船研究会会長）

■四月二十八日(日)午後一時半より三時
深田久弥山の文化館聴山房
演題：未定
講師：山下　豊氏
（鞍掛山を愛する会会長）

●読書会のお誘い

一　月　二十二日（火）「富士山」
二　月　二十六日（火）「恵那山」
三　月　二十六日（火）「雨飾山」

●場所＝深田久弥山の文化館　聴山房
●時間＝午後一時半より三時

＊詳細はホームページをご覧下さい

深田久弥山の文化館ホームページ
http://www2.kagacable.ne.jp/~yamabun

編集後記～

平成に開館した山の文化館も新しい時代に入ろうとしています。その間いろいろなことがありましたが一歩ずつ目標に向って進んでいますが、ゴールはまだまだです。これからも皆様のご協力をお願いします。

（Y・N）